

## 「廃寺は語る！よみがえる鹿児島県の仏教文化事業」 ～大願寺跡発掘調査・ワクワク考古楽授業支援～

埋蔵文化財センター

### 『廃寺は語る！よみがえる鹿児島県の仏教文化事業』

今から155年前、明治新政府は、明治元（1868）年に神仏分離令を発し、神社から仏教的色彩の払拭に努めました。本県では激しい廃仏毀釈運動に発展し、当時の寺院はすべて破壊され、鹿児島県の仏教文化は大きなダメージを受けました。この事業では、廃仏毀釈で廃寺となった寺院やそれ以前に廃寺となった寺院の発掘調査や文献調査を行い、失われた寺院の状況を解明し、その存在や歴史的価値を甦らせることを目的としています。

#### 令和5年度の事業（発掘調査）

埋蔵文化財センターでは、さつま町柏原に所在する「大願寺跡」の発掘調査を行いました。大願寺は貞治3（1364）年に創建した臨済宗の寺院です。室町幕府3代將軍足利義満自書の扁額「医王宝殿」が薬師堂に掲げられ、11～12の脇寺がある大きな寺院であったようです。禰答院氏の菩提寺であった大願寺は、禰答院氏の衰退とともに江戸時代初期には廃寺になったと考えられています。現在は、歴代禰答院氏の当主や、大願寺住持の墓石群が並ぶ薬師堂跡、開山堂跡、鐘撞き堂の礎石などが残っていますが、寺院の配置や大きさなどは分かっていません。そのため、鐘撞き堂跡近くの畑地の発掘調査を行いました。

調査の成果としては、大願寺が栄えていた当時のものと考えられる溝跡、土坑や柱穴を発見しました。また、古墳時代の土器、縄文時代早期の土器や石器が出土し、大願寺が建立されるよりも遙か昔から人々が連綿と生活を営んできた場所であるということも分かりました。



かねつき堂跡

#### 発掘調査を通して地域とのつながりを

1か月間の大願寺跡の発掘調査を通して、地域の方や学校との関わりをもつことができました。

6月7日に、柏原小学校の6年生が発掘体験を行い、縄文時代の黒曜石を見つけ、自分たちの住む校区の歴史の深さに驚いていました。

また、現場見学会を6月24日に行い、多くの地域の方が来跡してくださり、調査成果を紹介することができました。

更にワクワク考古楽の授業支援を6月29日に行い、柏原小学校の4・5年生に発掘調査の成果を紹介しました。



現場見学会の様子

今の暮らしと比較をしながら、出土した土器や石器、大願寺があった中世の遺物にふれていました。



出前授業の様子

また7月7日に上野原縄文の森展示館来場者250万人を達成しましたが、その250万人目が社会科学見学会に訪れた柏原小学校の6年生だったことには大願寺跡発掘調査を通してのつながりを感じずにはいられませんでした。児童の皆さんには今後も地域の歴史に興味をもち、関わっていただけたらと思います。

#### 今後の予定

これらの調査成果は、報告書にまとめ、今後の保存・活用のための基礎資料となるよう調査・研究を進め、またその成果を授業支援でも活用出来るようにします。